

⑧ 大山

図 II-73 学級数・児童生徒数

小学校名 (4校)	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生		合計	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
上滝	1	15	1	9	1	13	1	21	1	15	1	16	6	89
大庄	2	37	1	34	2	48	2	37	1	29	2	45	10	230
福沢		4	1	2		5	1	6		8	1	7	3	32
小見		1	1	2		2	1	2		3	1	3	3	13

※学級数は通常級のみ。児童数は人数であり、特支級の人数を含む。  
 ※福沢小及び小見小は1・2年生、3・4年生及び5・6年生で複式学級を編制。

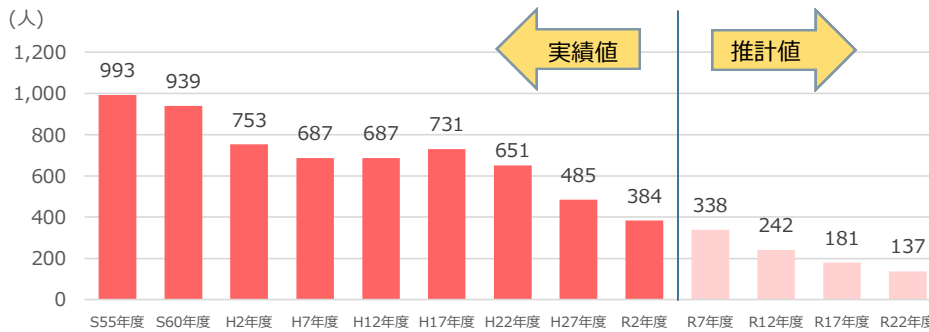
中学校名 (1校)	1年生		2年生		3年生		合計	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
上滝	2	70	2	65	2	79	6	214

※学級数は通常級のみ。生徒数は人数であり、特支級の人数を含む。

各学校の規模	
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightgreen; border:1px solid black;"></span>	: 大規模校
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightblue; border:1px solid black;"></span>	: 適正規模校
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:lightcoral; border:1px solid black;"></span>	: 小規模校

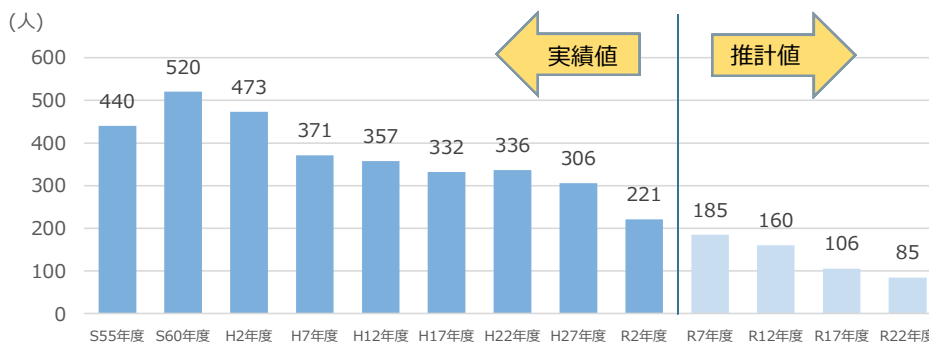
出典：「富山市の教育」（富山市教育委員会、令和3年9月）

図 II-74 小学校児童数推移



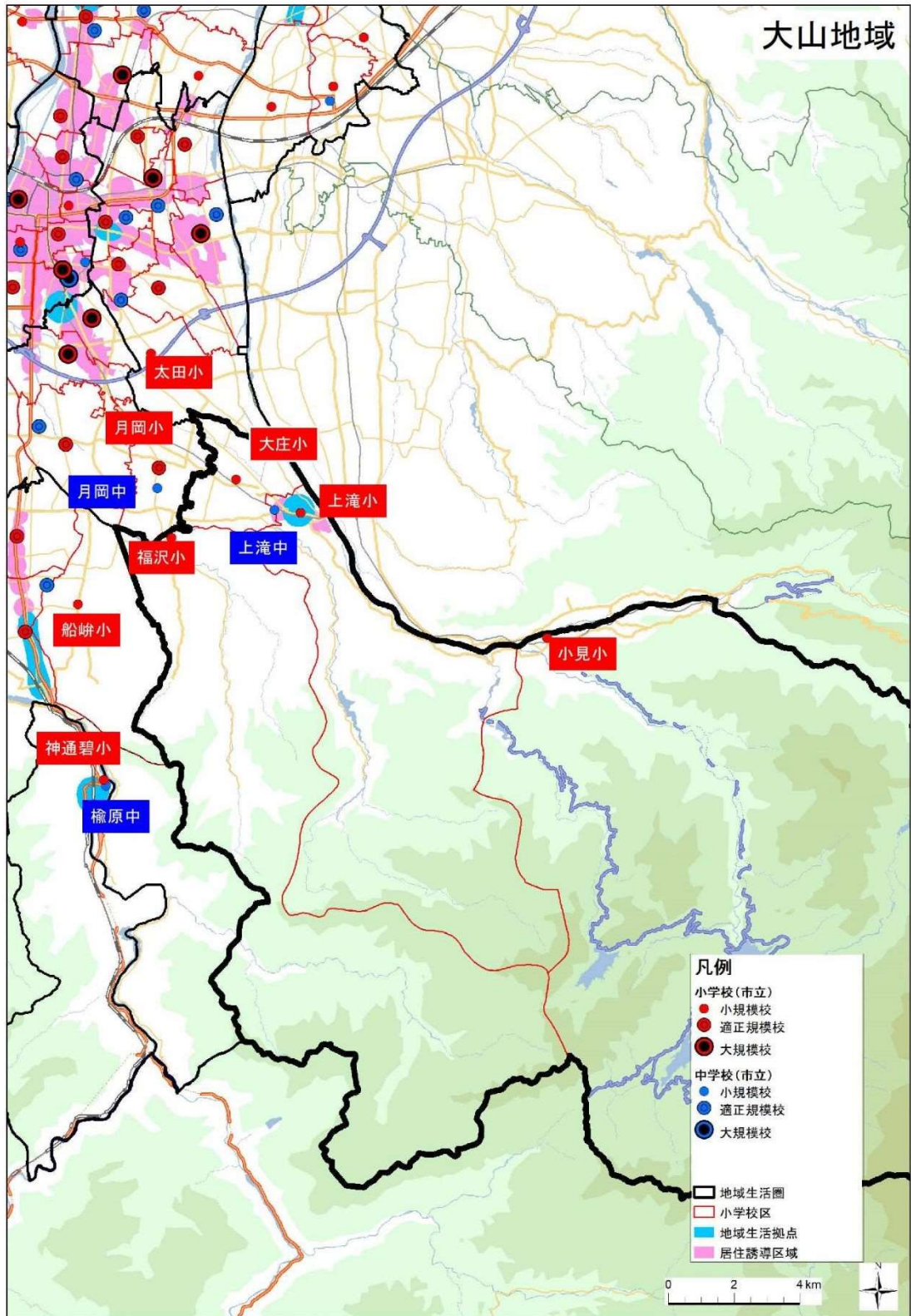
出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

図 II-75 中学校生徒数推移



出典：昭和55年度～平成12年度：各学校沿革史（富山市）、平成17年度～令和2年度：「富山市の教育」（富山市教育委員会、平成17年9月～令和2年9月）、令和7年度～令和22年度：令和2年3月31日住民基本台帳に基づくコーホート変化率法による推計

图 II-76 学校位置图



※学校規模は令和3年5月1日時点

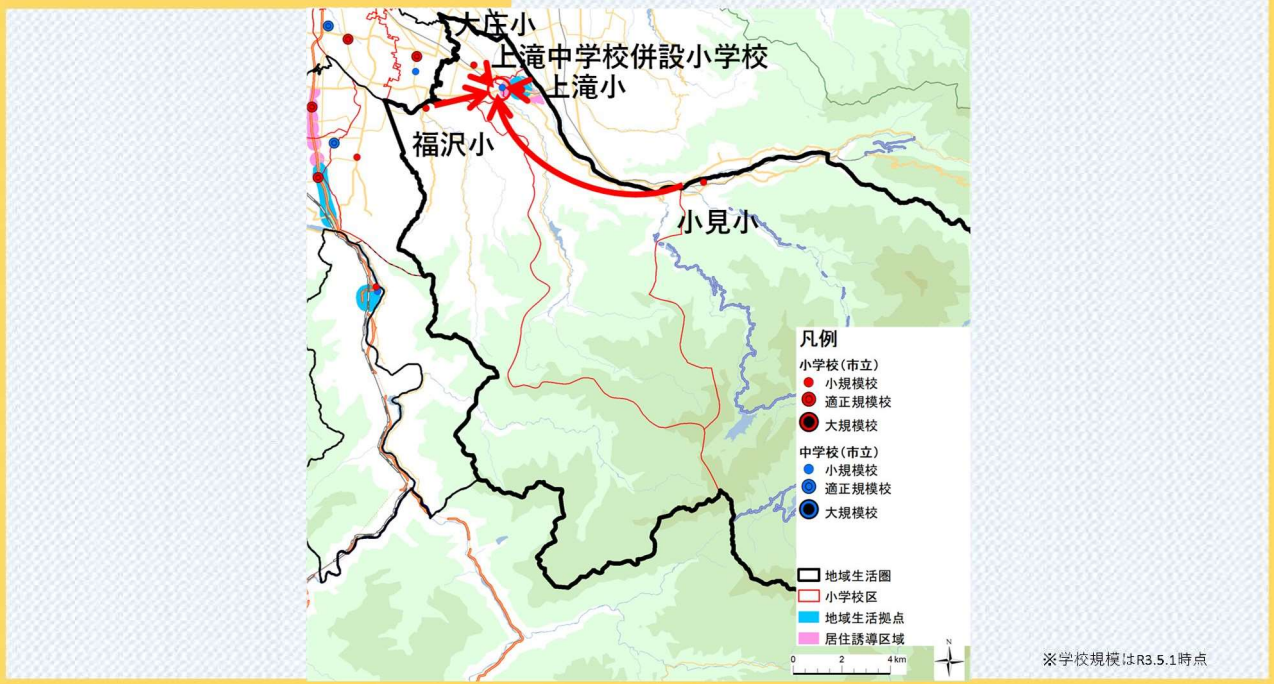


## 再編する学校の姿



※〔 〕内は進学先中学校  
 ※( )内は学校規模  
 ※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4(1)、(3)及び(4)に基づく  
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

### 該当する地域生活圏及び小学校区

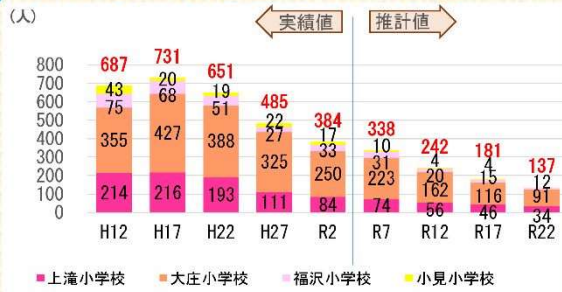




本計画	No.17
再編原案	大山-1(3)

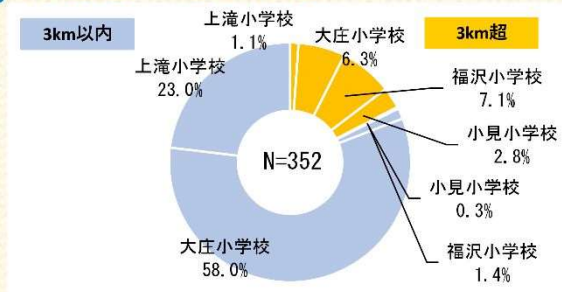
# 再編後の概況

## 再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
 ※赤字は児童生徒数の合計  
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

## 再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

## 再編後の学校規模（学級数）



※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
 大規模：学級数が19学級以上  
 小規模：学級数が11学級以下

## 再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。  
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。

※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

## 再編先学校の施設健全度

	大規模改造済	屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備
-						
-						
-						
-						
-						
-						

A：概ね良好  
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）  
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）  
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）  
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

## 再編先学校の周辺地域状況



## 再編先学校の指定避難所区分

**第2次避難所**  
 （洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所）

※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

## コメント

- 【通学距離】3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【必要教室数】教室数が充足するよう小学校棟の増築が必要となる。
- 【施設健全度】-
- 【周辺状況】居住誘導区域（立地適正化計画）内に位置する。  
農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。
- 【その他】上滝中学校は令和3年度に校舎が、令和6年度に体育館が完成する予定である。

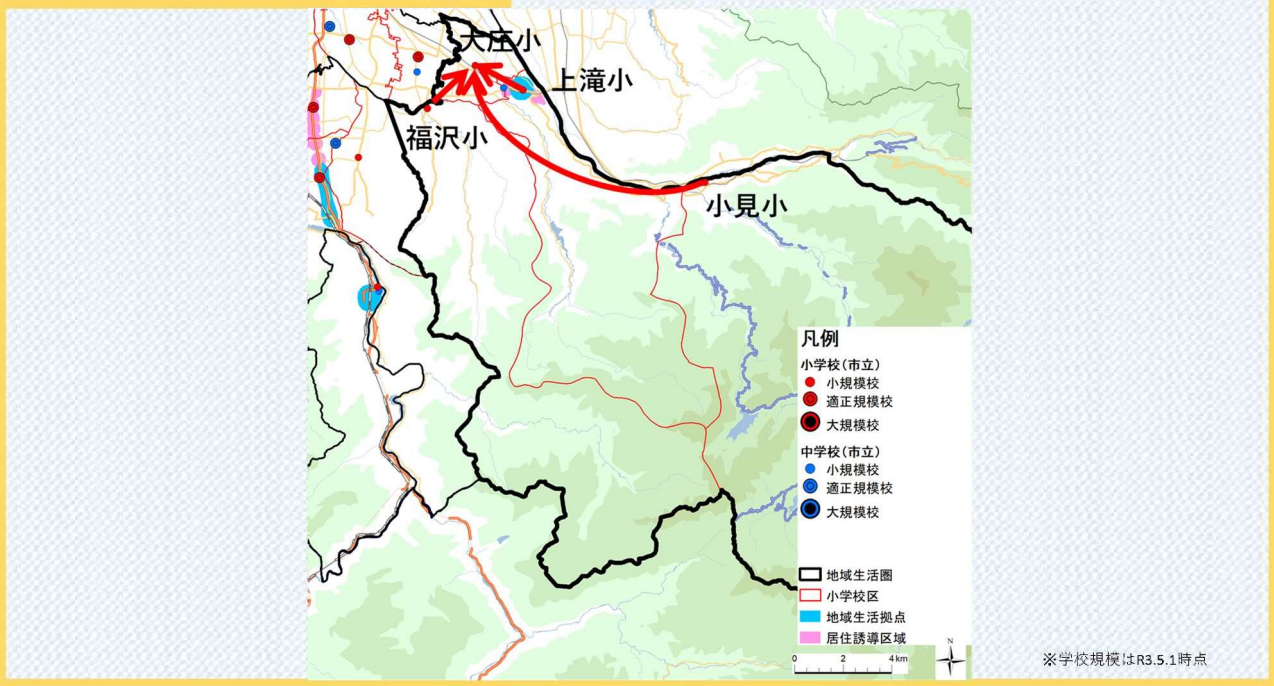


## 再編する学校の姿



※〔 〕内は進学先中学校  
 ※( )内は学校規模  
 ※再編の組み合わせは「市立小・中学校再編計画の考え方」4(1)、(3)及び(4)に基づく  
 ※「児童生徒数」は令和3年5月1日時点の通常学級及び特別支援学級の児童生徒数の合計、「学級数」は令和3年5月1日時点の通常学級の学級数（「富山市の教育」）

### 該当する地域生活圏及び小学校区

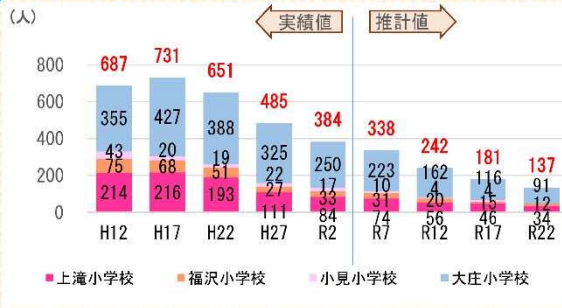




本計画	No.18
再編原案	大山-2

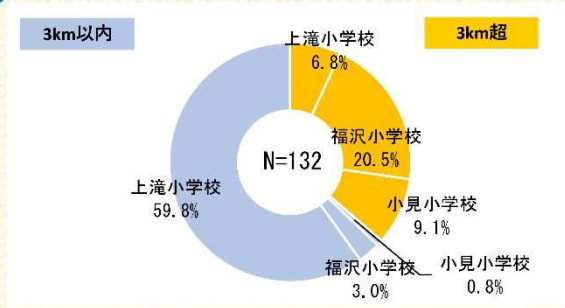
# 再編後の概況

## 再編後の児童生徒数の推移



※通常学級及び特別支援学級の児童生徒数  
 ※赤字は児童生徒数の合計  
 ※令和2年以前は「富山市の教育」に掲載されている児童生徒数  
 ※令和7年以降はコーホート変化率法に基づく推計児童生徒数

## 再編後の通学距離



※現在通学している児童生徒について住民基本台帳（令和3年8月時点）に基づき通学距離が3km以内、3km超となる児童生徒数を集計し、その割合を算出

## 再編後の学校規模(学級数)



適正規模：学級数が12学級以上18学級以下  
 大規模：学級数が19学級以上  
 小規模：学級数が11学級以下  
 ※コーホート変化率法に基づいて推計した児童生徒数により学級数を算出  
 ※学級平均は児童生徒数を学級数で除した

## 再編後の教室充足状況



充足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を下回っている。  
 不足：再編後の学級数が保有教室数（必要教室数）を上回っている。  
 ※保有教室数：普通教室数と転用可能な教室数を合計した数  
 ※コーホート変化率法に基づく推計生徒数により学級数を算出

## 再編先学校の施設健全度

	大規模 改造済	屋根 ・屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1 (建築年数35年)	○	B	B	A	A	A
校舎2 (建築年数17年)	-	A	A	A	A	A
体育館 (建築年数34年)	-	B	B	B	B	B

A：概ね良好  
 B：部分的に老朽化（安全上、機能上、問題なし）  
 C：広範囲に老朽化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）  
 D：早急に対応する必要がある（安全上、機能上、問題あり）  
 ※富山市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）

## 再編先学校の周辺地域状況



## 再編先学校の指定避難所区分

**第1次避難所**  
 （洪水時には2階以上に避難すべき緊急避難場所）  
 ※富山市避難所一覧（令和3年5月24日更新）

## コメント

- 【通学距離】 3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【学校規模】 3kmを超える児童生徒が存在する。
- 【必要教室数】 令和7年は適正規模校となるが、その後令和12、17、22年は小規模校となる。
- 【施設健全度】 教室数は充足している。
- 【周辺状況】 概ね良好である。  
 地域生活拠点及び居住誘導区域（立地適正化計画）外に位置する。  
 農地法第5条第4の規定に基づく協議書が必要となる可能性がある。